



(別添)

2024年10月31日

NITE (ナイト)

独立行政法人製品評価技術基盤機構

中国支所

## News Release

# 暖房、点検、ヨシ！

～ 5つの点検で火災を未然に防ぎましょう ～

— 中国5県版 —

電気暖房器具及び石油暖房器具について、それぞれ以下の5つの点検を実施し、事故を未然に防ぎましょう。

### ■電気暖房器具の5つの点検

- ☑1. リコール対象品かどうかを確認する。
- ☑2. 電源コードや電源プラグが変形・破損していないか、コンセントがたこ足配線になっていないかを確認する。
- ☑3. 機器と周囲の壁や可燃物との距離が十分に確保できていることを確認する。
- ☑4. 本体に変色や変形等の異常がないかを確認する。
- ☑5. 転倒時オフ機能が正常に作動するか確認する。

### ■石油暖房器具の5つの点検

- ☑1. ほこりがたまっていれば取り除く。
- ☑2. 対震自動消火装置が正しく作動することを確認する。
- ☑3. 燃料は新しい灯油を使い、昨シーズンの灯油を使用しない。  
ガソリンを灯油とは別の場所で保管するなど、誤給油を防ぐための対策を徹底する。
- ☑4. カートリッジタンクの給油口ふたが確実に閉まっていること、漏れがないことを確認する。
- ☑5. 機器と周囲の壁や可燃物との十分な距離が確保できていることを確認する。

## 1. 事故の発生状況

NITE(ナイト)が受け付けた製品事故情報<sup>※1</sup>のうち、暖房器具<sup>※2</sup>の事故は、中国地方5県（鳥取県、島根県、岡山県、広島県及び山口県）では **2019年から2023年までの5年間に29件**発生しており、発生状況は以下のとおりとなっています。

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含みます。

(※2) 石油ストーブ・石油ファンヒーター、電気ストーブ・電気ファンヒーター、ガスストーブ・ガスファンヒーター、オイルヒーター

(1) 中国5県の年度別 事故発生件数

表1に「年度別・県別」の暖房器具に関する事故発生件数を示します。

表1 「年別・県別」暖房器具に関する事故発生件数

年度	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
2019年度	1	1	2	1	2	7
2020年度		1	2	2		5
2021年度	1				1	2
2022年度	1	1	4	3	1	10
2023年度			3		2	5
合計	3	3	11	6	6	29

(2) 中国5県の被害状況別 事故発生件数

表2に「被害状況別・県別」の暖房器具に関する事故発生件数を示します。

表2 「被害状況別・県別」暖房器具に関する事故発生件数

被害状況 <sup>※4</sup>		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
人的被害	死亡		1	3	1	1	6
	重傷		1				1
	軽傷			1	1	1	3
物的被害	拡大被害	1	1	6	2	4	14
	製品破損	2		1	2		5
被害なし							0
合計		3	3	11	6	6	29

(※4) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(3) 中国5県の事故原因区分別 事故発生件数

表3に「事故原因区分別・県別」の暖房器具に関する事故発生件数を示します。

表3 「事故原因区分別・県別」暖房器具に関する事故発生件数

事故原因区分	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
A：設計、製造又は表示等に問題があったもの	2		2	2		6
B：製品及び使い方に問題があったもの						
C：経年劣化によるもの						
G3：製品起因であるが、その原因が不明のもの	1					1
D：施工、修理、又は輸送等に問題があったもの						
E：誤使用や不注意によるもの			1	1	1	3
F：その他製品に起因しないもの		1	2	1	1	5
G：原因不明のもの（G3を除く）		1	5	2	4	12
H：調査中のもの		1	1			2
合計	3	3	11	6	6	29

## 2. 事故事例の概要について

中国5県で発生した、暖房器具の主な事故事例を示します。

### ○電気ストーブの事故事例（誤使用・不注意による事故）

2022年3月（広島県、80歳代・男性、被害拡大）

#### 【事故の内容】

使用中の電気ストーブが転倒し、住宅を全焼した。

#### 【事故の原因】

電気ストーブを不安定な状態で置いたため、事故品が転倒した際、正常に転倒時オフスイッチが働かず、通電が継続し、周辺を焼損したものと推定される。

### ○石油ファンヒーターの事故事例（誤使用・不注意による事故）

2022年1月（岡山県、80歳代以上・女性、拡大被害）

#### 【事故の内容】

石油ファンヒーターを使用中、建物を全焼する火災が発生した。

#### 【事故の原因】

当該製品は、電気系統及び油系統に出火の痕跡や異常は認められず、油受皿の残さからガソリンが検出されたことから、ガソリンの異常燃焼が生じて出火に至ったものと考えられ、セルフスタンドでの燃料購入時の状況が不明のため、ガソリンが給油された原因の特定には至らなかったが、製品に起因しない事故と推定される。

## 3. 暖房器具関連の実験映像について

石油ストーブ等の実験映像及び静止画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてください。

#### （本件に関するお問い合わせ先）

〒730-0012 広島市中区上八丁堀 6-30 広島合同庁舎 3号館

独立行政法人製品評価技術基盤機構 中国支所

担当者：三谷、弘田

電話：082-211-0411

以上